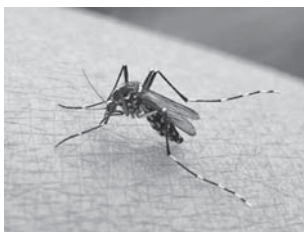
蚊による感染症とその対策
数を減らし、刺されない工夫を

近年、海外から国内への感染症の持ち込みが問題となっています。その一つが、2014年の国内でのデング熱流行です。デング熱は熱帯・亜熱帯地域で問題となっている蚊媒介感染症です。流行には、熱帯に生息するネッタイシマカの変わりに、日本に広く生息するヒトスジシマカが大きな役割を果たし、海外から帰国あるいは入国した感染者により持ち込まれたウイルスが、国内で流行することになってしまいました。そして現在、心配されているのが中南米などで流行しているジカ熱の持ち込みです。妊婦が感染して小頭症の子どもが多数確認されたため世界的に危険視されており、デング熱と同じように国内流行の可能性があるため、要注意とされています。

流行は、感染者を吸血した蚊がウイルス陽性蚊になることで始まります。このウイルス陽性蚊による吸血で新たな感染者が生まれ、人と蚊による感染サイクルが繰り返されることで感染が広がっていきます。

ヒトスジシマカは人工物の溜まり水でよく繁殖するため、人が多く居住する地域は流行が起こりやすく要注意です。

このため流行対策では①蚊の数を減らす（ボウフラ発生源の対策）②人が蚊に刺されない③患者の早期発見と対応（陽性蚊を発生させないため）が重要です。③の患者対策は行政が主体となりますが、①の蚊を減らす対策で重要なのが地域での取り組みです。



吸血するヒトスジシマカ（上）と発生源となる竹の切り株（中）、植木鉢の溜まり水（下）

各家庭で植木鉢の受け皿などの溜まり水対策を行い、地域では雨水桝に防除剤を投入したり、空き缶などの雨水が溜まるゴミを撤去するなどの対策を行って、蚊の発生を防ぎましょう。また、人が蚊に対して無防備でいるほど流行を広げてしまう恐れがあるため、②の対策として、肌の露出を避けたり虫よけ剤を活用するなど、個人防御への意識も高める必要があります。

（広島県立総合技術研究所　保健環境センター）

第4次広島県環境基本計画について
エコの力でひろしまを元気に

今回は、平成28年3月に策定しました「第4次広島県環境基本計画」をご紹介します。

「広島県環境基本計画」は、広島県の環境行政の基本方針となるもので、「第1次計画」を平成9年3月に策定して以降、環境問題の変化に適切に対応できるよう、適宜、改正を行っています。

今回の「第4次計画」では、前回計画と比較して、大きく2つの要素を盛り込んでいます。

1つ目は、基本理念のサブタイトルを「エコの力でひろしまを元気に」とし、里山里海の荒廃、地域コミュニティの衰退、地域経済の疲弊などの地域課題の解決にも資する環境施策を新たに展開していくこととしています。環境保全の取り組みは、コストや負担感といったマイナスイメージで捉えられがちです。そこで、地域資源を活用し、経済的価値や心の豊かさなどの付加価値を持つ施策を展開することで、多くの県民の皆さまにプラスイメージを持ってもらい、自主的な活動が広がっていくことを目指しています。

2つ目は、「都市」「沿岸」「山間」の3つのエリアと「エリア間で共通となるもの」の4つの区分で、県民の皆さまに実践していただきたい行動・ライフスタイルを提示したことです。例えば、都市エリアであれば、移動の際に公共交通機関等を積極的に利用すること、山間エリアであれば、木質バイオマスを活用した熱利用等が進んでいることなどです。県民の皆さまには、この「目指す姿」を参考に、環境に配慮した生活に取り組んでいただきたいと思います。

これらの考え方に基づき、平成28年度は、「里山バイオマス利用促進事業」として、地域の未利用材をバイオマス燃料として地域内で活用するための仕組みづくりを支援します。また、「海ごみ対策推進事業」として、イベントと組み合わせた海岸の一斉清掃活動等を実施します。このほかにも地域が元気になる環境施策に取り組むこととしておりますので、皆さまの参加をお待ちしています。

（広島県環境政策課）

《目指す姿を構成する行動・ライフスタイル》

基本となる行動・ライフスタイル（エリア間で共通）

広島県環境基本計画　検索

第55回環境保健夏季大学

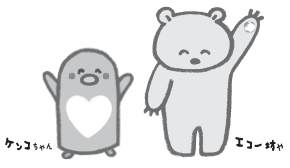
日　　時:平成28年7月7日(木)～8日(金)
受付開始:12:00～　開講式:13:00～
会　　場:グリーンピアせとうち(呉市安浦町三津口)
対 象 者:①市町公衛協役員及び事務局担当者でこれまでの夏季大学への参加が5回未満の方、②市町公衛協事務局活性化事業を実施する公衛協の事務局員および機能リーダー、③研修内容を考慮し適任と思われる公衛協関係者、④広島市公衆衛生推進協議会関係者(新規)、⑤地球温暖化対策地域協議会関係者(新規)

主なプログラム:(予定)

【1日目】分科会
・当協会が主催する専門研修の体験
・健康長寿支援事業の体験

【2日目】
・基調講演　内容:「『無関心層』への働きかけの基本のキ」
　講師:広島修道大学人間環境学部　西村　仁志　氏
・無関心層へ働きかける方法の検討分科会
・1万人の食チェック事業おたのしみ抽選会

平成28年度 地区衛生組織活動資金募集



通称
『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成28年度で57回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金総額(円)
8,597,082

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	930,900	54.1
海田町	990,000	39.2
熊野町	0	0.0
坂町	0	0.0
江田島市	413,200	22.1
竹原市	0	0.0
大崎上島町	0	0.0
大竹市	1,180,170	46.5
廿日市市	2,546,200	75.0
廿日市市大野	0	0.0
廿日市市佐伯	0	0.0
廿日市市吉和	0	0.0
廿日市市宮島	0	0.0
安芸太田町	0	0.0

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	0	0.0
安芸高田市	0	0.0
東広島市	0	0.0
三原市	1,205,300	67.0
世羅町	0	0.0
尾道市	1,276,100	28.4
福山市	0	0.0
府中市	0	0.0
神石高原町	0	0.0
三次市	0	0.0
庄原市	0	0.0
呉市	0	0.0
その他	55,212	82.5
合計	8,597,082	14.8

市町別一覧表(平成28年5月末現在)

※この表は、平成28年5月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

募金の使途（公衛協配分金）
環境づくり
・ごみの減量化と分別排出の徹底・リサイクル活動の推進
・道路、河川など生活空間の美化活動
・脱温暖化に向けたライフスタイルの推進
・みちクリーン・散乱ごみの追放運動
・脱温暖化普及啓発活動

まつりのごみダイエット作戦（坂町公衆衛生推進協議会）

不法投棄ごみの回収（江田島市公衆衛生推進協議会）